

予測値に関する注意

(冬季～春季の親潮第1分枝の南下について)

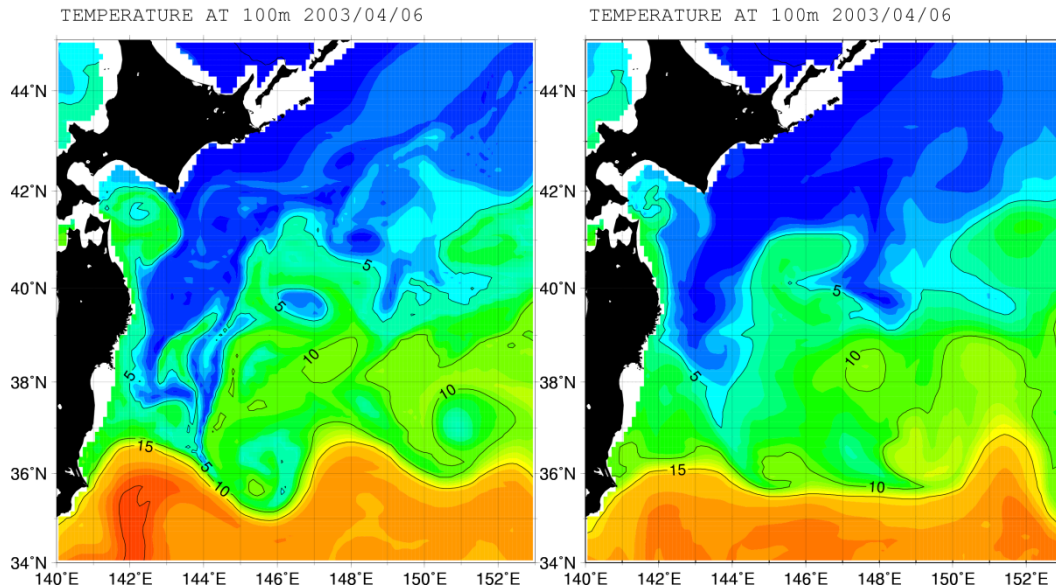


図 予測値 (左図), 再解析値 (右図)

上記の図は、2003年4月6日における100m水温の予測値(初期値から33日後)と再解析値を示しています。再解析値における親潮第1分枝の南限緯度は 38° N付近にありますが、予測値における南限緯度は黒潮続流(第1の峯)に接触する 37° N付近にあります。現在運用版システムを用いた予測計算において、このような親潮第1分枝の過度な南下が冬季～春季の予測値にしばしば現れることが確認されています。

当海域だけでなくシステム計算領域全体の予測精度を向上させるべく努力していますが、冬季～春季の予測値における親潮第1分枝を参照される際は十分にご留意下さい。